

スタッフのアウトリーチの考え

○30歳男性、入社7ヶ月、元保育士

〈初回訪問で注意していること〉

・訪問前、保護者に当事者の状況を詳細に聞いておく。

→当事者の落ち着いている時間帯、食事・睡眠状況など

※スタッフが訪問した後、当事者が暴力的にならないことを確認

・当事者との話題作りのために、自宅周辺的环境や玄関などに注意を向ける。

→近所にコンビニはあるか、玄関前に自転車は置いてあるか、使われているかなど

※当事者の日常をイメージしておくこと、会話が進みやすい。

・初回はあいさつ程度で早めに切り上げる。

スタッフのアウトリーチの考え

〈2回目以降の訪問〉

・過去のことはあまり聞かない。

→当事者の過去を知らない第三者だから話せることがある。過去のことでよりこれからどうするかが重要。

・自分の人生観を話す。

→アメリカの統計では、定年を迎えた人に「人生に悔いがあるとしたらそれは何か」という質問をしたところ、「若い頃、やりたいことにチャレンジしなかったこと」という回答が最も多かった。当事者にも悔いを残さないよう、今やりたいことをやってもらいたい。

→社会の中で自分の長所や個性を発揮することが重要。

ひきこもり体験者からの聞き取り①

○リスタートスタッフ、36歳男性

〈プロフィール〉

大学中退後、専門学校卒。会社の都合でパートにさせられ生活が困窮し退職。バイトを転々とした後、32～33歳の期間ひきこもり生活を送る。父親が退職したことをきっかけに、ひきこもり支援センターに登録した。

〈性格〉

人見知り傾向があり、友人関係は乏しい。真面目な性格だが、努力する前にあきらめる(本人談)。

〈ひきこもっているとき嫌だったこと〉

「何がやりたい?」「どんな仕事がしたい?」と聞かれること。

※それがわかっていたら動いている!

ひきこもり体験者からの聞き取り①

〈苦手な支援者〉

自分の言葉を全て受容してくれる人。自分に本当に必要なことが選べなくなる。選択肢を絞ってくれたほうがよい。

〈当事者に伝えたいこと〉

・当事者たちは理想が高く、頭でっかちになっている。頭で考えていることと、実際に行うことは違うので、まず行動してほしい。

・「人に話したところで何もならない」と考えている。自分の中で完結させず、人に相談してほしい。

※自分の体験を聞いてもらえることはありがたい。

自分の体験を利用者にあてはめることは危険だと認識している。

ひきこもり体験者からの聞き取り②

○ひきこもり支援センター利用者、30歳男性

〈プロフィール〉

高校卒業後、就職せずひきこもり状態になった。何か原因があった訳ではなく、やりたいことがなかった。ひきこもっている間、本屋に行く以外は外出しなかった。ひきこもり生活が10年経過し、母親が病気になったことをきっかけに「変わろう」と考えるようになり、他機関の訪問支援員にひきこもり支援センターを紹介され訪問、登録した。現在スーパーで職場体験をしている。

〈ひきこもっているとき嫌だったこと〉

普段は家族と話をしないが、月に数回説教される。その間何も言い返せず、黙って耐えていた。「もう言わないでくれ」というと余計に言われた。

※ひきこもっている間、将来のことを考えないようにしていた。大変辛かった。あの当時どうしてそんなことをしていたのか、今は考えられない。

理事長のアウトリーチ講習

〈当事者に会えなくても効果はある〉

・当事者は「このままではいけない」という思いがある。第三者が「自分に会いに来た」というだけで、良い刺激がある。

〈アウトリーチから自立までの流れ〉

- ・家内接触
- ・屋外連れ出し：散歩、ドライブ
- ・プログラム・イベント参加
- ・自主的なコミュニケーション：ボランティア活動※本人の希望の上
- ・就労・就学活動 ※慎重に行う
- ・自活

理事長のアウトリーチ講習

〈重要なポイント〉

- ・密着すること:長時間生活を共にする。その中で見えてくるものがある。
- ・寄り添うこと:トレーニングに付き合い、励ます。

〈禁句〉

- ・3S:「それぐらいのことで・・・」「そろそろ・・・」「知っているよ・・・」

〈支援者の覚悟〉

- ・自分の都合で支援予定を変えない
- ・緊急対応時には拒否できない
- ・当事者に生涯同行する

今回の実習を通して学んだこと

①アウトリーチの技法全般。

- 初めての訪問時において、相手との共通の話題を準備しておく。また周囲の環境もよく把握して、相手の日常生活をイメージしておく。
- 相手との関係が悪くなるときは、自分の考えを押し付けたり、自分の都合で訪問しているとき。相手に寄り添う気持ちを強くする。

②他業種との連携のあり方。

- 日常的に顔を合わせる機会を設け、情報交換をしておく。自分のできること、できないことをPRしておく。
- ※同業種とも普段からつながって情報交換をしておく。

今回の実習を通して学んだこと

③その他

- ・「当事者とともに生涯同行する」という覚悟ができた。
- ・ひきこもり者たちを寮・アパートで生活させ、自活の支援を行うという手法に、大きな可能性を感じた。自分の仕事として何かできないか考えていきたい。
- ・リスタートと今後もつながりをもっていたい。理事長にはアウトリーチについてのSVや講演などをお願いしたい。

研修生②⑤
特定非営利活動法人 リスタート



平成25年度 アウトリーチ（訪問支援）
実地研修報告

川崎市北部児童相談所